

紀行文

一人旅

2006.10.21

昭和41年度卒業 鈴木正常

ようやく思い立った一人旅である、2年前から構想は頭の中で考えていた。両親に育てていただいた地方廻りである、笑われるかもしれない64才にして湧出した冒険心を試みることになったのだ。父親は84才で他界、母親は94才で今年の(2006年)4月に旅だったのである。なんとしても 今年中に旅を試みたかった

丁度岩大のユースホステルクラブのOB会が10月の7・8日に網張温泉で開催されることになりこれ幸いと7日から13日目を選んだわけである。

卒業してから40年目である。当然足が愛車である スズキ軽 660ccターボエンジン付き カーナビ(2000年式の中古品)装着 1ヶ月位前にエンジンオイルは交換済み心配なのはタイヤのパンク・タイミングベルトの破損だけである。心に決めた絶対大丈夫だと、



全走行距離
約2000Km

18. 10. 7 平成18年10月7日出発日あいにくと大雨と強風 太平洋沿岸を台風13号が北上中であつた。東北道泉インターより高速道に乗る一路盛岡・滝沢インターを目指して平均時速80Km/h 風雨のすごさにもかかわらず100キロはでる何台にも追い越されながらこちらは何台も追い越す ラジオの音ははつきり入らないテープでの音楽を楽しみながら、2時間半ほどで滝沢インターに着く 正午ちょっと過ぎである。家で心配していると思い一応高速道を下りたことをメールしてやる。問題はここからなのだ、方向が解からない地図とナビのにらめっこである 道路標識を頼りに車を走らせる。ちょうどお腹も空いてきたのであるレストラン(聞こえは良いがラーメン店)に入り激辛ラーメンを注文する。出来あがるまで網張までの道のりを聞くため友人T氏にメールしてみる、応答が無い(後で聞いたことだがこのメールアドレスは パソコンのアドレスなそうである) 多分今ごろは新幹線か送迎バスのなかだとおもえる。しかたなく食事後車に乗り地図と標識で目的地に向かってだんだん山道に差し掛かってくる、なんとなく不安 所々にベンション・別荘等がたちならんでいる。丁度道の高台にさしかかりかけ広場になっていたのでここで一服する。地図をにらめっこしパソコンで出した地図と比較してみる解かりずらい そうこうしている時網張温泉村の送迎バスが追い抜いていった、これ幸いと後を追ったのである。到着したとき3年前にあった懐かしの面々が降り立ったのである。残念ながら雨の為岩手山登山は中止となった。個々仲間達が各部屋で集う事になった。H氏のトマトの栽培方法・有機肥料の作り方 S氏の犬の訓練等話は尽きない、いよいよOB会開催となる各卒業年度毎の挨拶と近況報告、後は宴会がはじまり40年間の昔話に花が咲く。

10. 8 面々はHPで御覧あれ 翌朝はゴルフに行った人もあり 小岩井農場へと 盛岡の手作り村にて後輩のT氏の展示会を見聞された方もいる様だ。我々T氏 N氏 U氏もまた手作り村で作品の見学と元気づけにまず向かう 見学後はU氏の案内で七時雨山に向かう 昔懐かしい場のような気持ちになる足を運んだような 紅葉にはちょっと早めであ



その日は盛岡泊りとなる、我々同期生4名と2年先輩のT氏が集う事になった 40年前の昔に花が咲き あの頃の憧れの人の話になったような気がする。啄木の『かのときに云いそびれたる大切の言葉今も胸に残れど』ということを行ったような気がする。(今もって忘れられないということは その頃はこのような言葉は無かったが今言うスニーカーなのかな) 64才という歳を考えたらあきれ返るだろう。その日はぐっすり寝込んだようである。一宿の恩を受けたT氏とも別れを告げて(T氏風邪を召された様だ) いよいよ出発である。

10. 9 翌朝8時起床食事後 いよいよもって 一人旅の出発である 最初は 小学校5年迄いた沼宮内(岩手町)である街並みはほとんど変わっていない小学校・城山公園・お寺・神社(階段はそのまま)・昔泳いだりスケートしたことのある川である。深さとか川岸の崖の部分が変わった。その頃住んでいた家はまったくない、別な感じの家が立ち並んでいる、



当時は石垣は無く岩肌で沢カニが取れた



この辺は冬季時分厚い氷が張り天然のスケートリンクとなった

我輩の母校



母校 木造であった当時の面影は全然ない



お寺の本堂のなかの一郭を借り受けて生活したこともあった



明治天皇愛馬のお墓



神社の階段 ここで怖い話を大人たちに聞かされた事が有ったっけ それ以来恐怖心が芽生えた

大分 幼心に描いていた町並みと変わっていたのに驚いた次第だ 50~55年前のお話である。 これより一路4号線を北上 大湊へと向かう。

何の戸という町が幾度となく続く 野辺地辺りまでくると広大な陸奥湾が目に入ってくる風が相当強い白波が海上にみられる。



下北半島を北上 国道279号線 中間辺りまで進んでふと思い出した。本州の最北端尻屋崎に行ってみよう 途中より進路を太平洋側にむける、珍しいことにこの辺でも竜

風力発電が多い様だ(原子力の使用済み核燃料の貯蔵施設があるとか) 宗さんの『下北の旅』のテープを聞きながら一路ロマンチック街道まっしぐら



何度も道を踏み間違えて進む、土地の交番のやさしい 地方ナマリのあるお巡りさんに道のりを説明していただき尻屋崎に向かうことが出来た。

秋口の【寒立馬】ももすばらしいたいへん綺麗である。太平洋本州最北端に打ち寄せる 白い波頭がなんともいえなかった。

尻屋崎にて





尻屋崎と大間港 間の海岸



大湊(陸奥市)



ホテルからの夜景

釜伏山
太平洋戦争当時の重要な軍事基地

尻屋から大湊まで約2時間位かな 飛び込みでホテルに入る、くる途中雑木林と雑木林の道路をクマが横切ったのにはさすがが驚かされた。ホテルからの夜景は素晴らしい物でした。



大湊駅



今も有る大湊の掃海艇

10、10 翌朝大間に向かう 到着したのが午前10時頃 函館に向かうフェリーは10月以降 一日2便に減った 2便目は12時半頃となる。

大間近辺にて



石川 啄木の歌碑



フェリーから

函館山と立待岬



大間函館間約2時間 函館に着き車を走らせるが全然かわってて当時(約35年前)の面影はない、大学を卒業してはじめての仕事に付いたところである。

前日 友人(先輩)に電話して会うことにしていたので安心はしていた。ビジネスホテルを予約して載っていたので一応安心はしていた。

その夜は4人ばかり集まり酒を酌み交わし昔のはなしに花が咲いた。皆それぞれ良き年配に達していた。前もって連絡しておけば10人以上は集まったといわれたが皆に迷惑をかけると思いきや連絡に留めたのだ。

翌日H夫妻のご招待で湯の川温泉に泊まることになった、日中時間は函館・大沼・五稜郭・朝市等案内していただいた。

10. 11 函館にて



函館山の突端(立待岬)



協会

大沼公園にて(松島に類似)



洋館



五稜郭



函館の路面電車



五稜郭



湯の川温泉 路面電車



10. 12

いよいよ 函館ともお別れである。3年間過ごした青春の地でもあった、酔った勢いで湯の川の砂浜に横たわって啄木の歌碑と朝まですごしたことも在ったH夫婦に感謝を込め別れを告げて 一路函館から青森へのフェリーに乗り込む 普通連絡船では4時間であったがいまは3時間とちょっとで青森に着く、当時と比べると船の機能も一段と進歩したのだろう。青森からはすぐに奥入瀬方面に向かう。紅葉には今いち早い 途中から田代台に進路を変更ここは紅葉が盛んで全て黄色づくめであった。八甲田の山々も雲には隠れていたが紅葉がだいぶん進んでいた。奥入瀬にはいり 紅葉がまだ早いのか観光バスはまばらである。



八甲田山



白樺林



いまいち早い紅葉



十和田の周辺 紅葉未だ早し



奥入瀬溪流



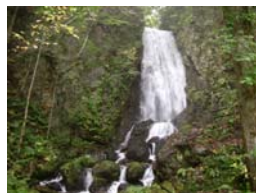
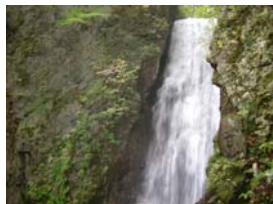
十和田湖



10.13 大湯温泉泊まり 私の生まれた所 親戚の旅館にお世話になり翌日朝9時出発一路久慈・岩泉方面に向かって愛車を走らせる、
途中 七時雨に向かう道路から安代の不動の滝に寄ってみる。すばらしい景観である。縁結びの木も
格別のものがある。若い人達に伝えたい。 古き良き時代の産物を……………。



七時雨山から数キロ



一路第3のふるさと岩泉と向かう 久慈方面に向かい葛巻の道の駅に立ち寄り牛乳とヨーグルトをみやげに購入する。昔は辺鄙な陸の孤島とまで言われた土地であった。
今は道路もだいぶ整備されみちがえるほどだ。雑木ばやしが延々とつながり看板は岩泉方向をさしている結構遠い 川を右手に見ながら走行すること20分岩泉駅に着く
まずは母校である岩泉中学校方面に向かう 木造だった校舎も今は鉄筋コンクリート3階建て 小便するにしても皆で並んで用をたす長いトイレだったことを思い出す。
理科の時間等は裏の土地に野菜を植え収穫時にはリヤカーを引っ張って街に売りにいったことも また小動物(ヤギ・うさぎ等)の飼育などもやらせられた記憶がある。
母校をあとに竜泉洞に向かう ここは何度も訪れたことがある 未開発当時は無料であった、 あるところまで入って行けた時代があった。今はりっぱに整備され観光地として
活躍している。湧出る水は岩泉町の水道資源として使われているとの事、 昼は向えの観光物産展で流しそばを食した。 当時住んでいたところに向う当時の家はもうない

岩泉にて



竜泉洞



中学校時代利用した食堂



憂いら山



今は何と呼ばれているか
当時は『三本松』と

吾が母校(岩泉中学校)



これも昔木造2階建て 今は鉄筋コンクリート3階建て

校門前の石碑



いよいよ旅の終わりに近づいてきた。岩泉を後に車は一路 岩洞湖を右手に観ながら盛岡方面に向う紅葉は未だ早い・湖面の水が秋の光を浴びて寒寒としていた。盛岡には寄らずに4号線を一路南下する。日はとっぷりと暮れてきたので花巻インターより高速道に上る、最初の計画だった45号線を南下し釜石・陸前高田・大船渡を廻るコースをとれなかったのは時間的制約を受け心残りがあった。さびしく・切ない旅ではあったが 楽しくもあった心に残る一人旅でした。

青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の様相を言うのだ。

たまには一人旅してみませんか